

立教大学日本文学 第109号 2013年1月

加藤定彦教授 定年退職記念号

目 次

加藤定彦先生を送る／沖森卓也 2

エッセイ 加藤定彦さんのこと／渡辺憲司 4

加藤定彦教授 自筆略譜及び主要研究業績／7

北毛俳壇の展開と月次句合（上）

——左部家旧蔵資料の語るもの（その3）——／加藤定彦 22

芭蕉自筆卷子本『野ざらし』随想／宇都宮 譲 40

立圃「三十六禽十八番発句合」紹介と翻刻／倉島利仁 52

湖十系点印付囑の諸問題 ——〈其角正統〉という演出——／稲葉有祐 60

《翻刻》『画口合相撲 地巻』（その一・全三回）／中島穂高 74

立教大学所蔵 江戸川乱歩旧蔵『若衆物語』（明暦三年板）

——書誌・翻刻・挿絵／安原真琴 81

賀茂真淵自筆草稿『西かへり』の解題と翻刻／高松亮太 92

二代目市川団十郎と劇場経営

——享保十九年の江戸歌舞伎——／ビュールク・トーヴェ 104

文明開化と長唄 ——「靱猿」を中心に／細谷朋子 118

長崎人、福地桜痴の上京 ——荷庵の書簡から——／丹羽みさと 131

郷里における毛谷村六助と論介

——福岡県郷土紙「かみつ」をめぐる／岩谷めぐみ 143

『源氏物語』の和歌を読む（六）／加藤 睦 151

「いなかたち」考 ——「虫めづる姫君」の難語の解釈——／櫻井靖久 163

海幸山幸の中世神話考 ——絵巻『かみよ物語』を中心に——／金 英珠 170

佐藤春夫と一九一〇年代（二）

——ニーチェ・鷗外・大石誠之助との関わりをめぐる——／石崎 等 185

科学の時代と文学 ——大正から昭和へ——／城所弘実 197

江戸川乱歩と手塚治虫 ——戦後〈科学〉表象の一側面——／栗田 卓 209

書評 石川巧著『高度経済成長期の文学』／瀧田 浩 227

新刊紹介 231

彙報・編集後記 234